

大豆NEWS!

vol112

じゅってんさんまるまる

「大豆10・300運動」始動！

～技術対策で国産大豆の将来を変えよう

大豆の栽培技術については、昭和40年台に水稻の転作が開始されたことをきっかけに多くの技術が開発され、単収の向上に貢献してきました。例えば昭和54年～平成元年の10年間で平年収量は3割もアップしています。しかしながら、その後の10年間で伸びた収量はたったの2kg/10aであり、「頭打ち」感があることは事実です。

今後、大豆生産を定着させるためには、農家所得の向上が一番の課題であり、商品性の高い大豆づくりとともに、安定的に高単収を実現することが不可欠です。このため、農林水産省では、大豆作の担い手の生産水準として、「10a当たりの作業時間10時間以内でかつ単収300kg以上」を目標として掲げ、全国、ブロック、都道府県、地区（市町村、農協レベル）の各段階で、普及組織と行政が中心となって栽培技術の確立・普及に集中的に取り組む「大豆10・300運動」を推進することとしました。

日本の大豆生産農家の技術レベルは実に様々であり、単収300kgを毎年のように達成する農家が多数存在する一方で、「大豆は200kgは絶対穫れないもの」と諦めている方もいます。高温多湿の日本で大豆を作るためには、排水対策や病害虫の防除など適切な肥培管理が重要であることは言うまでもありませんが、その実践において大きな差が存在しているのです。このような農家間の技術の差、意識の差はどこにあるのかということ进行分析し、栽培技術を含め適切な処方箋を作る必要があります。

この運動では、先進技術だけを推進するというより、地域ごとの低単収要因を明確にし、それに対処し得る栽培技術体系を指導者が十分に納得して組立て、担い手農家に伝達することに重点を置いています。栽培技術は必要性を感じて実践してこそ技術ですが、そのことを理解してくれる大豆栽培農家をいかに育成できるかがこの運動の成功の鍵と言えるでしょう。関係者の皆様の積極的な取組を期待しています。

「農業技術1月号」に第55回農業技術功労者表彰を受けられた元富山県専門技術員の中村嘉寿氏の受賞記が掲載されています。今回の運動の目標としている活動を既に実践されています。是非ご一読下さい。

大豆NEWS!電子化さる！

農林水産省畑作振興課のホームページに大豆NEWS!をアップしました。

<URL> <http://www.maff.go.jp/soshiki/nousan/hatashin/>

発行：不定期

発行元：農林水産省畑作振興課 豆類班 tel 03-3502-8111（内線4318、4319）

・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、御自由にお寄せください。

・記事を転載される場合は、御一報ください。